

- 1 日 時 令和元年（2019年）5月24日（金）19時00分～20時20分
2 場 所 市民ホールつくばね 大会議室
3 出席者 都市計画部 部長、次長
公有地利活用推進課 課長、課長補佐、係長、係員3名
茨城県 産業戦略部 技術振興局長、技術革新課長補佐、課員1名
学校法人 校長、事務局長、運営統括次長、事務部長
4 参加者 11名

5 内 容

(1) 説明内容

筑波西中学校跡地利活用（案）について、別紙説明会資料を用いて説明した。

(2) 質疑・意見交換（○：市、●：参加者、△事業者）

- 本件の雰囲気を出元に伝えたところ、地元も喜んでいる。教職員を経験した人もそのように思っており、歓迎ムードはすでにあるように思う。職業体験は農業が中心となるが、つくば市を中心に考えていただけると有り難い。

既存校と新たな高校は、別な学校との位置付けになるのか。

→△既存校はある程度収容人数の限界が見えている。そのため、筑波西中で開設する学校は既存の高校とは別と考えてもらったほうが良い。

→●ぜひ、既存校に負けない魅力ある学校にしてほしい。区長も協力したいと思っており、情報共有しながら一緒に創れる学校にしていただけると有り難い。

- 今回、このような学校を創っていただけるということで、地区も元気になる。

筑波西中へは、毎日、どれくらいの子供が通うのか、職業体験をどんな場所で考えているのか。通学の交通手段はどのように考えているのか。

→△1回5日間、200名程度の生徒が年間30週入れ替わりで来る。移動手段も皆様から知恵をいただくことになるが、東京駅からバスで来たり、TXでつくば駅まで来てバスで移動することも考えている。職業体験も皆様からつくばでこんなことができるという知恵をいただけるとありがたい。芝体験等も行えればと考えている。

- 松見高校の審議会委員を経験したことがあるが、不登校で学校に行けなくなった子が入学してきて、卒業時には自信を持って卒業していく。社会の複雑化により良い子が学校に行けないこともある。できるだけ早い時期に県に申請して進めていただけると有り難い。

→△通信制というだけで社会的に評価が低いと思われがちだが、子どもたちの居場所を造りたいと考えている。

●進学校、専門校又は就職等、どこを基準に検討を進めているのか。1万人以上の生徒が入ってくるということだが、どの辺のエリアに焦点を当てているのか。

→△進路については、学校の方針は決めていない。様々な子を受け入れていきたい。生徒のエリアは、既存校と重複したエリアになると思うが、今後検討していきたい。来年の4月から6千人を超える生徒が既存校に入ってくることが予測されているため、2校目に流さざるを得ない状況となっている。2校で4万人を目標としている。

●子どもを入学させたい場合、学力は大丈夫か、費用はどれくらいかかるか等が重要な部分となる。公的な支援はあるか。

→△入学試験は実施しておらず学力は問わない。かかる費用は初年度が25万3千円（入学金1万円）で、2～3年目は24万3千円である。この金額で大学受験対策講座やプログラミング等、オンラインで受けられるものはすべて受けることが可能となる。高等学校就学支援金として、12～18万円は国から支援が受けられる。スクーリングの交通費は別途かかるが、負担が少ないように全国に面接会場を設けている。

●新しい教育スタイルのため、不安な部分もある。高校認可は県事業のため責任を持って学校を育てていきたいと思う。

●地域といかに連携して学校運営していただけるかが地元として心配しているところ。通信制だと実態がどのようになっていくかが見えにくい部分もある。地域との連携や取組について、現段階で考えているものを伺いたい。また、学校開放に対する考え方を伺いたい。

→△学校開放については協力しようと考えている。既存校でも地域にグラウンドを使っている。地域との連携や取組については、今後、子どもたちがどんな作業ができるか勉強したい。

以 上